

# 災害時、業界は“救命医”に

## 宇都宮 仙台建設業協が活動紹介

仙台市の災害復旧の状況について説明する深松努副会長―25日午後、宇都宮市雀宮町、市南図書館



県道路施設清掃業協会（小林征四郎会長、12社）は25日、宇都宮市内で第6回安全大会を開いた。仙台建設業

協会の深松努副会長（46）が「東日本大震災・仙台市災害復旧の現状と課題」と題し講演、会員ら約50人が熱心に聞き入った。

深松副会長は、津波などで700人以上が死亡した仙台市で、建設業協会が警察や自衛隊とともに遺体を捜索したり、がれき処理に当たった活動を紹介。震災直後の写真を示

し、「アパートの中に車が入り、防風林が家をなぎ倒した。遺体はマネキンのように硬直していた」と悲惨な状況を説明した。

建設作業員も過酷な状況に置かれ、「作業から戻れば役所から『あっちに行け、こっちに行け』と言われた。燃料も食料もなくなり、みんな殺気立っていた」と振り返った。深松副会長は「我々以外に家は直せない。建設業は普段は町医者で、災害時は救急救命医」などと業界の使命を訴えた。

平成23年10月26日付

下野新聞